

【短報】岐阜県西部におけるチビゴミムシの記録

岐阜県西部の揖斐川町の八草川流域においては、八草峠の北東（標高 620 m）から記載されたヤツクサメクラチビゴミムシ *Trechiana intermedius* S. Uéno, 1980（ヨシイメクラチビゴミムシ系 *T. ohshimai* complex）と、より下流域（標高 520-420 m）から記載されたサカウチメクラチビゴミムシ *T. iwasakii* S. Uéno, 1988（スズカメクラチビゴミムシ系 *T. suzukaensis* complex）という、同じヨシイメクラチビゴミムシ種群 *T. ohshimai* group ではあるが、系統の異なる 2 種のメクラチビゴミムシが記録されている。

2 種の基産地は直線距離でわずか 500 m 足らずしか離れていないが、原記載では河川の対岸で棲み分けていることが示唆されており、同所的に採集された記録はなかった。

しかし、筆者が 2013 年、2014 年の 7 月に同流域

を調査したところ、林道脇の堆積土から両種を同時に採集することができたので、2 種の分布域が交錯し同所的に棲息していることを示すものとして、ここに記録しておきたい。

1. ヤツクサメクラチビゴミムシ（図 1-3）

2♂♂, 岐阜県揖斐郡揖斐川町坂内川上とつさか谷（標高 550 m）, 14. VII. 2013；1♀, 同所, 19. VII. 2014, 筆者採集。

2. サカウチメクラチビゴミムシ（図 4-6）

5♂♂（うち 2 頭はテネラル）3♀♀, 同所, 14. VII. 2013；10♂♂4♀♀, 同所, 19. VII. 2014, 筆者採集。

八草トンネル入口付近から、現在は通行止となっている八草峠への旧道を進み、古い支線を登ったところに、林道脇から水が染み出した箇所があり、約 5 m 幅で小規模な崖錐が形成されており、その堆積土を掘ったところ 20-50 cm の深さの土中から両種を採集することができた。

採集地は、林道が浅い地下水脈を横切っている箇所らしく、常に法面から水が染み出しており、その結果、長年に亘り土砂が堆積したものと思われる。なお、2 種を見分けるには、雄交尾器に依らなくても、体形が異なること、前種複眼の退化が著しいことなどから容易である。

引用文献

- Uéno, S.-I., 1980. The Anophthalmic Trechine beetles of the Group of *Trechiana ohshimai*. Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, A6: 195-274
 Uéno, S.-I., 1988. Parapatric Occurrence of Anophthalmic *Trechiana* (Coleoptera, Trechini) in Central Japan. Journal of the Speleological Society of Japan, 13: 1-13

（奥田好秀 665-0852 宝塚市売布 3-15-31-404）

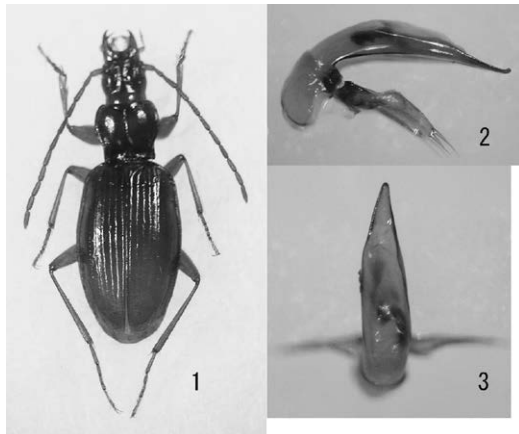


図1-3. ヤツクサメクラチビゴミムシ♂（1:背面, 2:交尾器側面, 3:交尾器背面）。

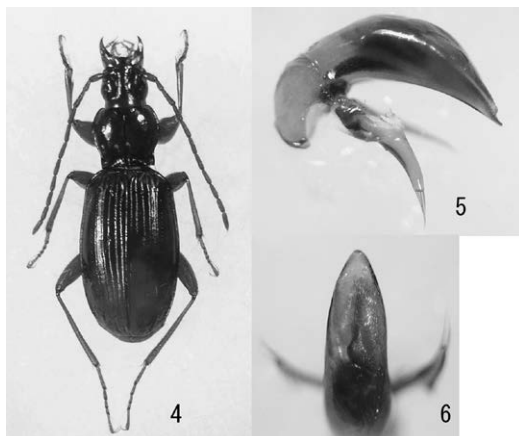


図4-6. サカウチメクラチビゴミムシ♂（4:背面, 5:交尾器側面, 6:交尾器背面）。